

山口大学医学部

霜仁会会報



第301号

令和5年7月発行

発行人 福田進太郎

霜仁会事務局 TEL:0836-22-2029

FAX:0836-31-7586

E-mail:jimu@soujinkai.jp

HP:http://soujinkai.jp/

印刷所 瞬報社オフリン印刷(株)

令和5年度

霜仁会総会報告

令和5年度霜仁会総会が、去る5月14日(日) ANA クラウンプラザホテル宇部にて開催された。今回の総会は河村宜克理事(平8年卒)の司会で始まった。

はじめに福田進太郎会長(昭54年卒)が「今後、ワクチン接種や新たなパンデミックへの警戒など、医療界に求められるものは多岐にわたることが予想される。全員が協力して様々な事態に対処していかねばならない。」と挨拶された。

次に、代議員選挙について若松隆史選挙管理委員会

委員長(昭56年卒)から、

2月末より任期満了に伴う代議員の立候補を募ったところ、支部代議員および期別代議員とも定数内の応募があり、選挙は行わず代議員を選出したことが報告された。

議長には坂部武史先生(昭45年卒)が選出された。議事に先立ち出席状況が報告され、代議員120名のうち51名の出席と40名の委任状により定数の過半数に達し、総会の成立が確認された。議事録署名人には吉永榮一(宇部支部)、草野倫好(平7年卒)両代議員が指名された。

議案審議は代議員総会の形式で、藤村嘉彦副会長(昭56年卒)の令和4年度事業報告(第1号議案)から始まった。次に白澤宏幸



(第5号議案)、理事会決議権限の委任(第6号議案)が提示された。更には、霜仁会学術振興賞に関する規約および霜仁会社会活動部門賞に関する規約の一部改正案(第7号議案)が提示された。審議の結果、第1号議案から第7号議案まですべて承認された。第8議案においては、

昨年7月7日に厚狭支部と小野田支部が合併し、山陽小野田支部が発足したことが報告された。また、恒例の新任代議員の挨拶では、左利厚生期別代議員(昭40年卒)、島袋智之期別代議員(昭56年卒)、藤岡輝学生代議員(学生1年)が挨拶に立った。(詳細は本会報の8、10頁)。

新任代議員の紹介
【支部代議員】木戸健司(四国支部)、【期別代議員】河村奨(昭37年卒)、左利厚生(昭40年卒)、島袋智之(昭56年卒)、藤本滯学生代議員(学生3年)、藤岡輝学生代議員(学生1年)(敬称略)

休憩をはさんで、後半の総会は篠田晃医学系研究科長・医学部長と松永和人附属病院長・学術振興賞選考委員長、田邊剛医学科長の他、6名の医学科教授と霜

仁会賞受賞者3名を迎えて再開された。藤村副会長から理事の役割分担について紹介された。



令和5年度霜仁会本部役員・職員

カミングデーが併催され盛況だったこと、更には今年度の課題として、人材不足に対して30代前半の同窓生と大学とのつながりを強化するシステム作り、研究科の再構築、OCCE・CRTの公的化に対する準備について述べられた。また、今年

福田会長の挨拶に引き続き、篠田医学系研究科長・医学部長から医学部の近況として、昨年10月に医学祭、山口医学会、ホーム



者42名の名前が読み上げられ、出席者全員で黙祷を捧げた。

支部紹介では関東支部の小川健治代議員（昭47年卒）が、本年4月22日に東京の後楽園飯店で、3年ぶりの関東支部総会と併催された第11回懇親総会の様子を

紹介された。総勢74名の参加者があったこと、関東支部会員数が521名であること、更には3年前の関東支部総会の様子や、山口大学他学部の間窓会関東支部代表者との会合が5月17日に予定されていることを話された。

引き続き、学術振興賞選考委員長の松永和人教授から、本賞、奨励賞、藤生賞の授賞対象となった業績が紹介されたのち、霜仁会賞授賞式が厳かに執り行われた。尚、令和4年度の社会活動部門賞には応募がなかったことが紹介された。令和4年度霜仁会賞受賞者は左記のとおりである。

第52回霜仁会学術振興賞

本賞

村上 順一

（自治医科大学医学部

自己開発コース、早期外科

山口大学医学部附属病院

第一外科



「中皮腫モデルマウスにおいて免疫療法を併用した局所放射線療法後の手術療法は抗腫瘍免疫応答を最大化する」

奨励賞

田中 慎二（平27年卒）

周南記念病院 循環器内科

「PRRの安定化による右室機能の維持、心室性不整脈発症の軽減、および肺高血圧症の予後の改善」

藤生賞

石川 剛（平12年卒）

山口大学大学院医学系研究科 消化器内科学講座
「門脈圧亢進症を伴う非代償性肝硬変患者の生命予後延長を目指した臨床研究」
「薬物・内視鏡・ITによるトータルマネジメント」

令和5年度 各委員会の活動方針ならびに事業計画

総務・総合補償保険運営

白澤宏幸委員長
当委員会においては以下のような多種多様な活動をして参ります。

1. 公衆衛生の向上のための教育助成事業として、県民を対象とした健康増進教育や障害者スポーツの指導者に対し医学的見地からの教育についての支援を行います。

2. 霜仁会ホームページのリニューアルに伴う見直し・更新をします。

3. 支部会活性化のため、支部会が開催される場合、可能な限り本部からも出席することとし、要請があれば医学部教官にも出席依頼の便宜を図ります。

4. 霜仁会会員総合補償制度を充実させます。

5. 総会、理事会、委員長会議、各種委員会、理事と新任教授との懇談会等を実施していく予定です。

6. 財政基盤強化のため、会費納入率の向上および収益事業部門の活性化を図ります。

特に会費納入率は60%を

白蘭会への助成を行っております。

広報

奥屋 茂委員長
広報委員会では、年4回定期的に編集・発行している霜仁会会報を通して、またリニューアルされたホームページを活用して、会員相互のつながりを築くことができるようにして参りたいと思います。学内外での会員のご活躍や、支部・クラブの活動、山口大学医学部・附属病院の動向、教室・関連病院・クラブ紹介等について、広範かつ詳細な情報を収集し、充実した内容で発信できるように、編集委員会で検討してまいります。

霜仁会会報の趣旨をご理解いただき、情報をお寄せいただくとともに、積極的にご寄稿ください。また、原稿依頼がお手元に届いた際には、ぜひともご協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、本年度は名簿改訂を行います。組織対策委員会・事務局とも協力して、この大事な任を務めさせていただきます。

検査センター運営

河野裕夫委員長
霜仁会検査センターの主

な業務内容は、病理組織・細胞診標本の作成とその病理診断ならびに細胞診断です。また、当センターは大学に隣接しておりますので、大学の先生方の研究支援としての病理組織標本の作製も行っています。霜仁会の収益部門ではありませんが、大学近隣の先生方の診療あるいは研究の支援を第一の目的として活動しています。センター職員一同、より良い標本と診断を迅速に先生方にお届けできるように日々努力しております。

組織対策

矢賀 健 委員長

組織対策委員会は、會員相互の親睦・交流をはかり会の発展に努めます。過去3年間は、新型コロナウイルス感染症により外出や各ルズ感染症により外出や各種会合の開催に制限がかかっておりました。本年5月以降感染症法上の取り扱いが5類に引き下げられ、行動制限が大幅に緩和されるため、支部総会が開催される事が予想されます。その際は会長をはじめ本部役員が出席し、山口大学医学部や霜仁会本部の現況を報告します。また、依頼があれば医学部教授にお願いし、学術講演をしていただくような手配します。委員会は、また、一般會員の増員をはかり霜仁会組織の拡大に努めるとともに、山口大学医学部附属病院医療人育成センターに協力し、山口大学で研修する初期臨床研修医をサポートすることにより、霜仁会の活性化をはかります。

先生方に貢献できるように努力いたしております。

関連病院対策・勤務医対策

城戸研二委員長

今後とも霜仁会検査センターをご利用いただき、より一層のご支援を賜りますよう、厚くお願い申し上げます。

関連病院対策につきましては、関連病院長協議会等と、いよいよ来年に迫りました、医師の働き方改革に

国際医学交流・会館運営

藤岡頭太郎委員長

山口大学留学生との交流を図るため、医学部のみならず、他学部と合同の交流会等の行事にも積極的に参加するとともに、支援を行うて参ります。昨年もコロナ禍のため交流会は中止になり、宇宙留学生交流会から寄付の依頼がありませんでしたので助成しませんでした。宇宙留学生交流会が

中ですので方針が決まり次第、霜仁会として対応する予定です。医学部医学科の留学生に対しては奨学金の貸与を行います(1件20万円)。昨年は5名の応募がありました。申し合わせとして過去5年間で奨学金貸与者が10名を超えていない場合は、10名を超えない範囲で貸与することができると理事会で決定いたしました。過去5年間の奨学金貸与者は3名でしたので昨年は応募者5名全員(インド、バングラデシュ、中国江蘇省、中国四川省、ミャンマー)に奨学金を貸与しました。帰国までにPeer Reviewのある英文雑誌に受理されれば返還を免除していただきます。応募の締め切りは毎年10月31日です。応募につきましては霜仁会事務局にお問い合わせください。今年度も医学部より委託があり、山口医学会事務職員との協力を得て、霜仁会館の管理を行います。今後、霜仁会館及び医学交流会館の有効活用と円滑な運営を行い、周辺の環境整備に協力します。

第11回 霜仁会懇親総会開催

令和5年4月22日(土)

午後6時より、東京の後楽園ホール2階にある中華料理店「後楽園飯店」にて、第11回霜仁会懇親総会を開催致しました。今回は「第31回日本医学会総会2023東京」に合わせての開催で、前回の名古屋(中京支部主催)以来、5年ぶりとなりました。ご参加は、来賓の谷澤幸生(昭58)、浅野務(昭59)、篠田晃医学部長(昭59・大阪大学)、松永和人(昭60)、院長(昭60)、古谷野妙子(昭60)、福本陽平(昭60)、中山英大(昭60)、霜仁会本部より福田進太郎(昭54)、藤村嘉彦(昭56)、黒川典枝(昭59)、両副会長、矢賀健(昭53)、城戸研二(昭53)、沖中芳彦(昭55)、田口敏彦(昭55)、奥屋茂(昭58)、藤岡頭太郎(昭59)、河野裕夫(昭59)、小野直司(昭60)、白澤宏幸(昭60)、吉野茂文(昭61)、山本健(昭61)の各理事、河田直人(昭61)、松井恵美(昭61)、大学より中尾淑乃(昭61)、兵庫支部より谷穰治(昭62)、岡山支部より吉松和彦(昭63)、大

分支部より平川泰平(平18)の各先生(括弧内は卒年)と、同伴の東、渡木、山口、小川、亀岡、浅野、木下、高橋の各令夫人、お手伝いの竹本えり子(小川秘書)の計74名でした。

集合写真撮影後、10の円卓に着席し、代議員の高橋先生の司会で会が始まりました。まず関東支部長小川の開会宣言、そして福田会長から医学部の現況について、14階建ての新病棟が令和元年に開院したこと、研究棟2棟(医修館、医明館)が各平成30年、令和3年に竣工したことが報告され、11名の新任教授が紹介されました。つづいて谷澤学長より、大学はビジョンとして「知の創造としなやかな人材の育成により、地域に世界に貢献する山口大学」を掲げ、「行きたい大学、頼れる大学」を目指すことの抱負が述べられました。

ついで関東支部を代表し、中山千葉大学学長から歓迎の挨拶がありました。

宴会は、参加最年長の東先生の乾杯で始まりました。巨人軍選手もよく訪れるという後楽園飯店の中華料理や大学から差し入れの清酒「長州学舎(農学部収穫の酒米から醸造した吟醸酒)」などを楽しみながら、参加者一人一人に自己紹介と近況報告などして貰いました。またその間にも、あちこちで話の輪ができて盛り上がり、楽しく有意義な会となりました。時間が経つのは早く、宴たけなわの中、中締め挨拶を亀岡先生が行い、一本締めで会を締めくくりました。

今回の懇親総会をこのように盛会裏に終えることができ、肩の荷がおりた気がしています。ご参加いただいた皆様はもとより、準備にご苦労いただいた本部事務局のお蔭と感謝致しております。有難うございました。次回のさらなる盛会を祈念致します。

(関東支部長 小川健治)

酒)」などを楽しみながら、参加者一人一人に自己紹介と近況報告などして貰いました。またその間にも、あちこちで話の輪ができて盛り上がり、楽しく有意義な会となりました。時間が経つのは早く、宴たけなわの中、中締め挨拶を亀岡先生が行い、一本締めで会を締めくくりました。



理事會報告

第10回理事會

令和5年2月17日(金)
19時より医学交流会館3階会議室において、25名の出席のもと開催された。

【報告事項】

1. 1月20日(金) 編集委員会 (奥屋)
2. 1月31日(火) デジタルWG (矢賀)
3. 霜仁会HPの進捗状況について (奥屋)
4. その他
 - ・ゲノム・機能分子解析学講座教授に坂本啓先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野講師)が選出された。

1. 新たに制定及び一部修正した規程等について審議し、承認した。(白澤)

2. 選挙管理委員会委員として、若松隆史先生と鶴田良介教授(救急・総合診療医学)が承認された。(白澤)

3. 令和5年度霜仁会総会・懇親会の実施方法について、資料により説明があり、承認された。(白澤)

第11回理事會

令和5年3月17日(金)
19時より医学交流会館3階会議室において、22名の出席のもと開催された。(白澤)

【報告事項】

1. 2月20日(月) 検査センター運営委員会 (河野)
2. 3月10日(金) 山口大学同窓会理事会 (福田)
3. 3月10日(金) 委員長会議 (白澤)
4. 3月15日(水) 令和4年度臨床研修医修了式 (福田)

1. 新たに制定及び一部修正した規程等について、協議した。(白澤)

2. 令和5年度霜仁会総会日程及び式次第について、資料により説明があり、承認された。(白澤)

3. 令和4年度決算見込(霜仁会法人会計、霜仁会一般会計、検査センター)

1 会計他)について、原案の決算見込が承認された。
 4. 令和5年度予算案(霜仁会法人会計、霜仁会一般会計、検査センター会計他)について、原案の予算案が承認された。
 5. 令和4年度事業報告について、原案の事業報告が承認された。(藤村)
 6. 令和5年度事業計画案について、原案の事業計画案が承認された。(藤村)

長協議会幹事会(城戸)
 5. 4月5日(水) 令和5年度入学式
 6. 4月6日(木) 新入生オリエンテーション(黒川)
 7. 4月13日(木) 会計監査(藤井)

第2回理事会
 令和5年5月19日(金)
 19時より国際ホテル宇部2階において22名の出席のもと開催された。

【報告事項】
 1. 4月18日(火) 編集委員会(奥屋)
 2. 4月22日(土) 第11回霜仁会懇親総会(福田)
 3. 5月14日(日) 霜仁会総会・懇親会(白澤)

【審議事項】
 1. 規程等について、審議し承認された。(白澤)
 2. 令和4年度決算(霜仁会法人会計、一般会計、霜仁会検査センター会計他)が承認された。(白澤)

教授紹介
 宮崎大学医学部外科学講座 心臓血管外科分野
 教授 古川貢之

属病院裏側にある講義棟は学生時代とほぼ変わらず、そのような場所での講義は感慨深い気持ちとなりました。平成7年卒業後、故郷の宮崎医科大学第二外科(現宮崎大学外科学講座)に入局し、心臓血管外科を専攻しました。その後、バチスタ手術のメッカであった葉山ハートセンターへの留学の機会をいただき、多くの手術を経験しました。平成28年より宮崎大学病院に勤務し、研究におきましては重症心不全に対する自己心温療法の可能性と工夫をメインテーマとし、現在に至っています。

高い外科診療を提供しております。大講座制に移行しての最大メリットは、各分野の横断的な協力により一体として問題にあたれることです。大動脈損傷を伴う多発外傷、大動脈食道瘻や血管再建を要する肝胆膵高難度手術など各分野同士の合同手術が日常的に行われ、治療の質の向上に貢献出来ています。今後、このような協力体制を深化させ社会に還元できるよう努めてまいります。

【報告事項】
 1. 令和5年度予算案(霜仁会法人会計、一般会計、霜仁会検査センター会計他)が承認された。(白澤)
 2. 令和5年度事業計画案について、承認された。(白澤)
 3. 令和4年度決算(霜仁会法人会計、一般会計、霜仁会検査センター会計他)が承認された。(白澤)

【審議事項】
 1. 令和5年度霜仁会総会・懇親会の反省点について、総会における期別代議員(平成卒)の出席率向上、懇親会における挨拶時間短縮方法等について、引き続き、次回以降の理事会で検討することになった。(白澤)

令和3年6月1日付けで宮崎大学外科学講座心臓血管外科分野教授を拝命しました古川貢之と申します。この度はご挨拶の機会を与えて頂きました霜仁会の先平方に感謝申し上げます。

私は平成元年に山口大学医学部に入学しました。学生時代は準硬式野球部に所属し、多くの素晴らしい先輩、同級生、後輩と過ごした日々は掛け替えない思い出です。昨年、山口大学器官病態外科学講座濱野公一教授のご厚意により5年生を対象とした特別専門講義の機会を頂きました。27年ぶりの母校は周辺の再整備を含め様変わりしており、特に壮麗な外観と機能性を併せ持つ附属病院には大変驚きました。一方、附

今後医師の働き方改革が推進され、緊急手術を扱う心臓血管外科はマンパワー不足に陥る可能性があり、急患への対応が不十分になることも危惧されます。今後も高いニーズに応えるためにはいかに次世代を担う若者を確保できるかがとても大切です。そのために、若手医師に活躍の場を提供し、明るく活発な教室を作り、外科を選択してもらうよう努めてまいります。

第1回理事会

令和5年4月18日(火)
 19時より医学交流会館3階会議室において22名の出席のもと開催された。

【報告事項】
 1. 3月23日(木) 山口大学大学院修了式及び山口大学卒業式(福田)
 2. 3月23日(木) 謝恩会(福田)
 3. 3月27日(月) 霜仁会学術振興賞最終選考委員会(山本)
 4. 3月28日(火) 山口大学医学部関連病院

令和5年度の役割分担について、原案どおり承認された。(白澤)

宮崎大学外科学講座は平成27年から心臓血管外科、呼吸器・乳腺外科、肝胆膵外科、消化器・内分泌・小児外科、形成外科よりなる大講座制に移行しています。それまでの専門領域の重複を排除し、患者さんに分かりやすく、安全で質の

最後にありますが、霜仁会の先生方には今後ともご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

就任挨拶

ゲノム・機能分子解析学講座
(微生物学講座) 就任の御挨拶

新任教授

山口大学大学院医学系研究科
ゲノム・機能分子解析学講座



教授 坂本 啓

この度令和5年4月1日付で山口大学大学院医学系研究科 ゲノム・機能分子解析学講座(微生物学講座)の教授を拜命致しました坂本啓と申します。着任にあたり、霜仁会の諸先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は札幌市の生まれで札幌南高校を卒業し、東京大学医学部で学びました。平成14年に卒業し、まずは内科研修医として大学附属病院や日本赤十字社医療センターで勤務の後、消化器内科への道を進み消化器専門医を取得しております。大学院では炎症性シグナルについての基礎研究を行いました。平成21年に学位を取得しました。学位取得後も朝

日生命成人病研究所で基礎研究を継続し、米国の細菌研究の拠点であるミシガン大学に留学致しました。5年半程度の留学中、病原体と常在細菌叢の攻防、病原体の宿主内での生存戦略等について研究を行いました。留学中の御縁から国内の感染症研究拠点である長崎大学へ赴任する機会を頂き、消化器領域を超えて細菌感染と生体反応や細菌の環境適応に関する基礎領域の研究を深める機会に恵まれました。また、長崎赴任中には新興感染症の検査・診療体制の構築に携わるという貴重な経験を積むことができました。

微生物学は近年色々と注目を浴びるようになっていきます。例えば新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス、梅毒の増加、薬剤耐性菌等、感染症の話題を

二ユースで見ない日は有りません。微生物学はそのような感染症に立ち向かうために不可欠の学問です。一方で、感染症分野だけではなく、微生物は生物や生態系を支えるシステムを形成するという点でも注目を浴びつつあります。生物や生態系には多様な微生物から構成される微生物叢が存在します。それは単純に生物が混在した状態ではなく、明らかに機能を持った存在として解釈されるようになってきました。共生微生物は宿主の健康状態や、以前は微生物とは無関係と考えられてきた領域の疾患の治療成績等までも左右するところが明らかになってきています。更に他の生物や土壌・水系にある微生物叢も人間の生活に深く関わることも分かってきました。このような背景から、今後の医療では微生物に関する素養が一層重要なものとなると思われま

す。私は山口大学を拠点として研究と教育の両面から微生物学を展開し、医療の土台の形成と先進科学の発展に努めて参りたいと思えます。今後とも御指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任挨拶

教授就任のご挨拶

新任教授

鹿児島大学大学院医学総合研究科
外科学講座 呼吸器外科学分野



教授 上田 和弘

2023年4月1日付で鹿児島大学呼吸器外科教授を拜命しました。この場をお借りし一言ご挨拶申し上げます。

私は山口県山口市に生まれ、山口高校から山口大学に進学し、卒業とともに1994年に同大学第一外科に入局しました。同年の入局者は私一人であり、当時教室を主宰されていた江里健輔先生にはとても大切に

からデータ収集などに協力してもらえたことは私にとって幸運でした。2018年に鹿児島大学呼吸器外科の佐藤雅美教授からお誘いいただき現教室に異動しました。赴任後はロボット支援下手術を新規導入しました。3箇所

つた私を金田好和先生(現山口県立総合医療センター呼吸器外科診療部長)をはじめスタッフの先生に支えていただきました。現在の第一外科の濱野公一教授の発案で「胸腔ドレーンの要らない肺がん手術」を提唱し、世界的に注目をいただきました。これは独自のエアリーク閉鎖法を開発したことに端を発しますが、後に山口大学医学会小西賞、霜仁会学術賞をいただきました。山口大学では放射線科の先生方からは画像解析について懇切丁寧にご指導いただき、そのおかげで肺がん診療への画像診断の活用について多くの発表をすることができました。私が追求してきた「安全かつ低侵襲な肺がん外科治療」の臨床業績と研究業績が評価され、年間一人に与えられる呼吸器外科学会賞を2013年に受賞しました。先輩方のみならず後輩

最後に、山口は私の故郷です。霜仁会の先生方には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年度 霜仁会総会報告

令和4年度 事業報告書

<p>I. 公益目的事業</p> <p>1. 特定寄附相当分 山口大学（医学部）への寄附 山口大学基金への寄附</p> <p>2. 継続事業相当分 山口県における医学教育・研究の助成事業 ・医学教育助成 ・医学教育関係病院長協議会への助成 ・山口県の研修医の教育方法の改善への助成 山口大学医学部留学生への助成 公衆衛生の向上のための教育助成事業 ・障害者スポーツ医学の推進について助成 霜仁会賞による学術研究の発展と奨励についての事業</p> <p>II. その他の事業</p> <p>1. 山口大学学生に対する教育支援事業 成績優秀者の学部長表彰助成 卒業証書授与式の会場借り上げ料助成</p> <p>2. 山口大学卒後臨床研修センターの運営助成 研修医のマッチング面接お茶代 卒後臨床研修指導医養成講習会への助成 民間企業による臨床研修病院合同説明会参加に助成 研修医オリエンテーション及び修了式に助成 キャリアナビゲーションin山大に助成</p> <p>3. 霜仁会館管理運営事業</p> <p>4. 会員相互の交流及び相互啓発に関する事業 霜仁会会報の発行 霜仁会ホームページの更新 支部活動の活性化 会員総合補償制度について</p>	<p>5. 山口大学同窓会等支援事業 山口大学同窓会負担金 山口大学同窓会事業</p> <p>III. 収益事業 検査センター運営 宇部市MCC管理業務受託 会報広告 山口大学医学部関連病院長協議会事務受託 霜仁会館管理業務受託</p> <p>IV. 法人管理運営事業</p> <p>1. 会議 総会 5月15日 理事会 8月を除く第3金曜日に開催、 委員長会議 3月10日 霜仁会賞運営委員会 11月18日 検査センター運営委員会 6月13日、7月15日、 2月20日</p> <p>2. 山口大学医学部各種行事への参加 新生オリエンテーション 4月6日 山口大学解剖献体者慰霊祭出席 10月28日 白衣着衣式出席 12月16日 研修医修了式 3月15日 謝恩会 3月23日</p> <p>3. 財政基盤の強化 会費増収のための会員への働きかけ 収益事業の拡張</p>
--	---

◎本部役員

会長	福田進太郎	S54	理事	田中 伸幸	S63
副会長	藤村 嘉彦	S56	〃	尾縣 秀信	H01
副会長	黒川 典枝	S59	〃	古谷 彰	H01
理事	矢賀 健	S53	〃	山本 健	H01
〃	城戸 研二	S53	〃	内山 浩一	H04
〃	沖中 芳彦	S55	〃	藤野 隆	H05・2号
〃	田口 敏彦	S55	〃	河村 宜克	H08
〃	奥屋 茂	S58	〃	石川 剛	H12
〃	河野 裕夫	S59	〃	永井 智彦	H19
〃	藤岡顕太郎	S59	監事	水田 英司	S47
〃	小野 直司	S60	〃	藤井 新也	S52
〃	白澤 宏幸	S60	事務局	河田 直人	
〃	西崎 隆文	S61	〃	松井 恵美	
〃	吉野 茂文	S61	〃	古屋ゆうこ	
〃	田尾 健	S62			

◎霜仁会本部役割分担（理事・事務局）

		会 務	委員長	委 員
会 長	副 会 長 藤 村 嘉 彦	総務委員会	白澤	事務局
		総合補償保険運営委員会		
		霜仁会賞運営委員会	山本	沖中・石川
		医学教育助成委員会		
福 田 進 太 郎	副 会 長 黒 川 典 枝	広報委員会	奥屋	田尾・内山・藤野 河村・永井
		検査センター運営委員会	河野	尾縣
		組織対策委員会	矢賀	田口・田中・古谷
		関連病院対策委員会	城戸	小野・吉野
		勤務医対策委員会		
		国際医学交流委員会	藤岡	西崎
		会館運営委員会		

令和5年度 事業計画

<p>I. 公益目的事業</p> <p>1. 特定寄附 山口大学（医学部）への寄附 山口大学基金への寄附</p> <p>2. 継続事業 山口県における医学教育・研究の助成事業 ・医学教育助成 ・医学教育関係病院長協議会への助成 ・山口県の研修医の教育方法の改善への助成 ・国際奨学金 公衆衛生の向上のための教育助成事業 ・健康増進教育への助成 ・障害者のスポーツ医学の推進について助成 霜仁会賞による学術研究の発展と奨励についての助成事業</p>	<p>II. その他の事業</p> <p>1. 山口大学学生に対する教育支援事業 成績優秀な医学部学生の学部長表彰助成 医学生のキャリアデザインについての教育助成 卒業証書授与式会場借り上げ料助成</p> <p>2. 山口大学卒後臨床研修医への指導助成</p> <p>3. 霜仁会館管理運営事業</p> <p>4. 会員相互の交流及び相互啓発に関する事業 霜仁会会報の発行 霜仁会ホームページのリニューアルに伴う見直し・更新 山口大学同窓会名簿作成 第11回霜仁会懇親総会（関東支部）開催 支部活動の活性化 霜仁会会員総合補償制度の充実</p>	<p>5. 山口大学同窓会等支援事業 山口大学同窓会負担金 山口大学同窓会理事会</p> <p>III. 収益事業</p> <p>1. 検査センター運営</p> <p>2. 事務室賃貸・・・医学交流会館1階</p> <p>3. 宇部市MCC管理業務受託</p> <p>4. 会報広告、名簿広告</p> <p>5. 山口大学医学部関連病院長協議会事務受託</p> <p>6. 霜仁会館管理業務受託</p> <p>IV. 法人管理運営業務</p> <p>1. 会議</p> <p>2. 山口大学医学部各種行事への参加</p> <p>3. 財政基盤の強化</p>
---	--	--

貸借対照表

令和5年3月31日現在 (単位：円)

Table with 4 columns: 部, 当年度, 前年度, 増減. Rows include 資産の部, 負債の部, 正味財産の部.

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで (単位：円)

Table with 4 columns: 部, 当年度, 前年度, 増減. Rows include 一般正味財産増減の部, 1. 経常増減の部, 2. 経常外増減の部.

《実施事業の公益目的支出明細》

Table with 4 columns: 種別, 計画, 実施. Rows include 特定寄附, 特定寄附(2), 継続事業(1), 継続事業(2), 継続事業(3), 公益目的支出合計.

《公益目的支出計画実施報告書》

令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）の概要

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 1. 公益目的財産額, 2. 当該事業年度の公益目的支出収支差額, ①前事業年度末日の公益目的収支差額, ②当該事業年度の公益目的支出の額, ③当該事業年度の実施事業収入の額, 3. 当該事業年度末日の公益目的財産残高.

収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

Table with 4 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 増減. Rows include 収入計, 支出計, 収支差額, 他会計振替額, 当期収支差額, 前期繰越収支差額, 次期繰越収支差額.

《公益目的支出計画の状況》

公益目的支出計画の完了予定事業年度の末日 ① 計画上の完了見込み 2035年3月31日

Table with 6 columns: 事業年度, 計画, 実施. Rows include 前事業年度, 当該事業年度, 翌事業年度. Sub-rows include 公益目的財産額, 公益目的収支差額, 公益目的支出の額, 実施事業収入の額, 公益目的財産残高.

代議員名簿

◎支部

関東支部 小川健治(47)
 吉川宏起(52)
 高橋隆二(62)
 田中一成(62)
 中京支部 二ノ宮三生(54)
 北陸支部 市村宏(55)
 京滋支部 渡邊雅彦(59)
 大阪支部 今井克次(61)
 久保田尚(H09)
 兵庫支部 小山治(50)
 岡山支部 園尾博司(47)
 広島支部 加藤誓(H03)
 國木弘道(49)
 山陰支部 西村新吉(40)
 四国支部 木戸健司(60)
 黒田泰弘(59)
 岩国支部 増田光家(59)
 柳井支部 新谷清(47)
 周南支部 井上祐介(H02)
 大城研二(53)
 山口支部 中村洋(55)
 神徳翁甫(38)
 防府支部 船津直彦(57)
 長門支部 斎木淳(62)
 萩支部 中村勝昭(53)
 宇部支部 福田信二(48)
 吉永榮一(56)
 山陽小野田支部 選出中
 美祿支部 本間喜一(52)
 下関支部 長岡榮(54)
 伊原公一郎(56)
 山下智省(60)
 北九州支部 吉田智治(55)
 坂野滋(H02)
 福岡支部 海江田令次(52)
 矢田部左近(57)
 佐賀支部 筒井俊徳(53)
 長崎支部 今村汪(44)
 佐世保支部 大石秀三(53)
 宮崎支部 市来能成(62)
 熊本支部 河野秀親(47)
 大分支部 藤倉義久(54)
 鹿児島支部 今村純一(52)
 沖繩支部 武村盛信(51)
 大学支部 白澤文吾(H05)
 高見太郎(H11)

◎期別

昭和24年卒
 昭和25年卒
 昭和26年卒
 昭和28年卒
 昭和29年卒
 昭和30年卒
 昭和31年卒
 昭和32年卒
 昭和33年卒
 昭和34年卒
 昭和35年卒
 昭和36年卒
 昭和37年卒
 昭和38年卒
 昭和39年卒
 昭和40年卒
 昭和41年卒
 昭和42年卒
 昭和43年卒
 昭和44年卒
 昭和45年卒
 昭和46年卒
 昭和47年卒
 昭和48年卒
 昭和49年卒
 昭和50年卒
 昭和51年卒
 昭和52年卒
 昭和53年卒
 昭和54年卒
 昭和55年卒
 昭和56年卒
 昭和57年卒
 昭和58年卒
 昭和59年卒
 昭和60年卒
 昭和61年卒
 昭和62年卒
 昭和63年卒
 平成元年卒
 平成2年卒
 平成3年卒
 平成4年卒
 平成5年卒
 平成6年卒
 平成7年卒
 平成8年卒

中村克衛
 猪本利雄
 緒形健
 山田通夫
 和田一成
 高田千弘
 河村奨
 香月哲也
 江里健輔
 左利厚生
 加藤紘
 沖田極
 鈴木英太郎
 渡木邦彦
 坂部武史
 小野弘子
 高橋睦夫
 小田悦郎
 倉田悟
 市原清志
 三木秀生
 内田正志
 瀬尾勝弘
 武藤正彦
 清水良一
 島袋智之
 中村康彦
 村上不二夫
 黒川泰
 三輪茂之
 下郡博明
 村松慶一
 下田宏二
 湯尻俊昭
 金沢守
 渡邊悦也
 田村博史
 藤村智之
 安本教則
 草野倫好
 岡本健志

平成9年卒
 平成10年卒
 平成11年卒
 平成12年卒
 平成13年卒
 平成14年卒
 平成15年卒
 平成16年卒
 平成17年卒
 平成18年卒
 平成19年卒
 平成20年卒
 平成21年卒
 平成22年卒
 平成23年卒
 平成24年卒
 平成25年卒
 平成26年卒
 平成27年卒
 平成28年卒
 平成29年卒
 平成30年卒
 平成31年卒
 令和2年卒
 令和3年卒
 令和4年卒
 令和5年卒

柳井亮二
 平田寛
 徳久善弘
 篠山端也
 瀬戸崎修司
 三谷紀之
 宮地英彰
 佐伯一成
 上別府豊治
 北田真平
 清水弘毅
 二ノ坂建史
 山縣裕史
 佐藤大輔
 徳永良洋
 芳賀聡
 古谷圭
 村上駿一
 伊勢田憲史
 今井智子
 河生多佳雄
 島村亮助
 口分田啓多
 石井幸多
 山谷優明
 久保輝太
 飯田美里

◎2号会員

奥田史雄

◎学生

6年生
 5年生
 4年生
 3年生
 2年生
 1年生

瀬戸口貴昭
 羽鳥未季子
 吉村美賀子
 藤本滯
 松田陸来
 藤岡輝

教室 紹介

整形外科科学講座

霜仁会の先生方におかれましては、平素より当科への患者さんのご紹介、学生・研修医の教育・指導、教室主催の学会・研究会へのご参加など、多くの場面で多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

山口大学整形外科科学講座は、伊藤鐵夫先生が初代教授として、昭和23年（1948年）に中四国で最初の整形外科科学講座として開講し、昭和32年（1957年）から服部奨先生、昭和58年（1983年）から河合伸也先生、平成16年（2004年）から田口敏彦先生が主宰されました。そして平成30年（2018年）から坂井孝司が担当させていただき、令和5年（2023年）は開講75年にあたります。

スタッフは教授以下22名（日本整形外科学会専門医17名、専攻医5名、日本リハビリテーション医学会専門医4名）が在籍しています。診療グループとして脊椎脊髓、関節（股関節・膝

関節・足関節・リウマチ性疾患）、手外科（手・手関節・肘関節・肩関節、マイクロ）、腫瘍、スポーツ、小児、外傷、骨代謝（骨粗鬆症）があり、救急部からの紹介例も含め、多岐にわたる運動器・神経疾患に対応しております。最近の手術件数は、2019年855件、2020年1019件、2021年987件、2022年984件と、2021年と2022年はコロナ禍で減少したものの年間1000件程度で推移しています。脊椎外科では伝統的な頸椎弓形形成術や腰椎手術など、大学ならではの難度の高い症例に、電気生理学的手法やナビゲーションを組み合わせながら安全で確実に治療しています。関節外科ではCTベースドナビゲーションシステムを使用した正確な人工関節手術や骨盤骨切り術を行って、年間約1200件の人工股関節手術を数えます。膝関節では高位脛骨骨切り術や自家培養軟骨移

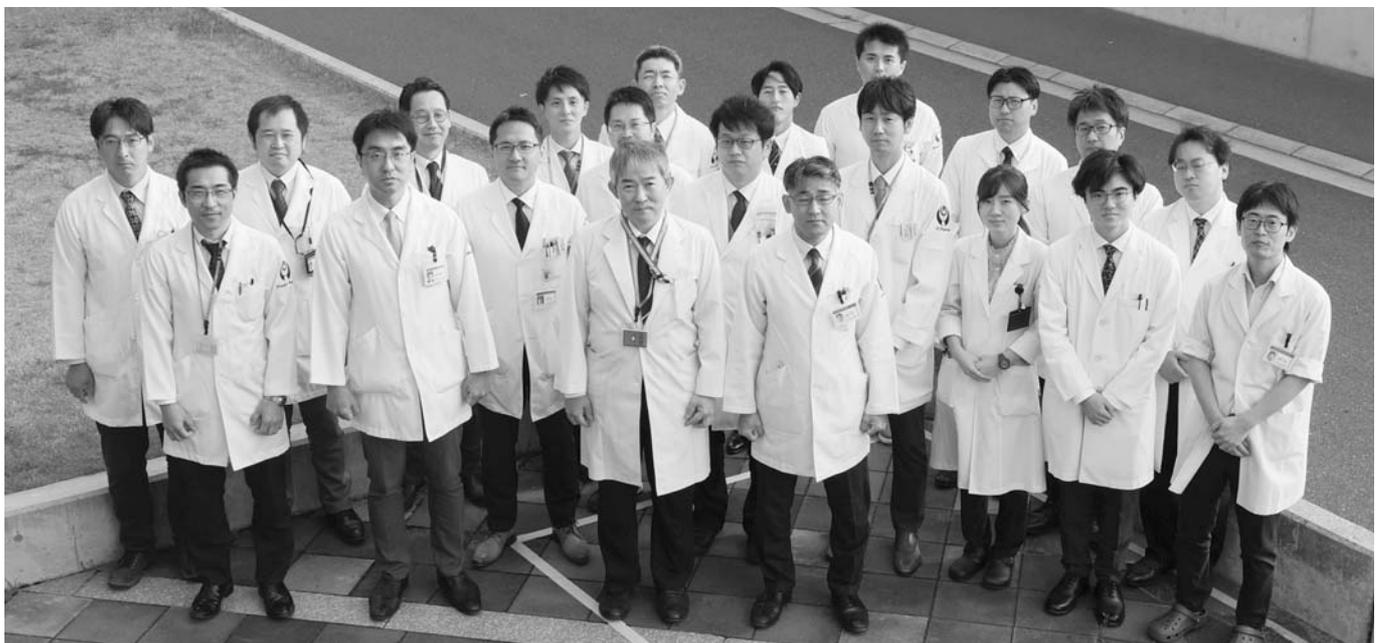
植手術も行っています。外傷では、脊椎や仙骨スクリュー固定などの際にはハイブリッド室でCTを使用し、正確な手術を行っています。また悪性骨軟部腫瘍に対する広範切除後の再建を放射線照射骨と血管柄付き骨移植術により行っています。

当教室では「挑戦」を掲げて「真剣にかつ楽しく」をモットーに診療・教育・研究に取り組んでおります。山口県の整形外科医療を担っており、常勤医の在籍する関連病院は22施設、医局員は114名が在籍しております。毎年4・6名の先生方に入局いただいておりますが、女性医師が少ないことが課題です。2023年度は入局いただいた6名中1名が女性医師で、働き方改革も踏まえ、個々の生活様式に合わせた勤務形態を模索し、女性医師にも働きやすい職場を目指しております。

教育について、整形外科とリハビリテーションの各領域について講義を担当しております。研究について、2022年度は2名の大学院生が博士課程を修了しました。2023年度は3名の大学院生が在籍し、薬理

学講座（朝霧成挙教授）との骨代謝に関する共同研究や、システムバイオインフォマティクス講座（浅井義之教授）と共同でAIを用いた種々の整形外科診断の開発に取り組んでいます。新規性のある研究テーマとして、疼痛や脊椎外科領域でのfunctional MRIを使用した評価法に取り組んでいます。また西田周泰講師を中心に、山口大学工学部と有限要素解析を主とした医工連携研究を推進しています。さらに指定難病である特発性大腿骨頭壊死症に関して2023年度から坂井が厚生労働省科学研究補助金調査研究班 研究代表者として担当させていただいております。今後主催予定の全国規模の学会として、2024年3月に日本コンピュータ支援整形外科（CAOS）学会（宇部市）、2025年10月日本股関節学会（下関市）を予定しております。霜仁会の諸先生方には引き続き御指導、御鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申しあげます。

（坂井孝司）



病院紹介

島根県立中央病院



病院長 小坂 真二 先生



霜仁会会員の皆様こんにちは。今回病院紹介をさせていただきます。島根県立中央病院の病院長小坂真二です。島根県立中央病院は島根県東部出雲市にあります。昭和15年(1940年)に私立松乃舎病院として開設され、昭和23年(1948年)に島根県に移管されました。昭和54年(1979年)には救命救急センターに指定されました。平成11年(1999年)に現在の場所に移転し、ベッド数667床の新病院が開院、全国に先駆けて電子カルテ

が稼働しています。平成23年からは島根県ドクターへの基地病院となっており、早い時期から救命救急センターに指定され、島根県ドクターヘリの基地病院として、年間500件ほどのドクターヘリを運行しています。救命センター外来は一次から三次までの救急患者を受け入れる北米型ER形式で運営しており、当院入院患者の4割は救急外来から入院の患者であり、通常外来から当日入院となる患者を含めると5割は予定外入院です。唯一の県立総合病院として、地域の最後の砦として救急医療に力を

入れていた病院です。また、昨年より新たに地域総合医育成科を設置、島根県と協力して地域中小病院で働く総合医の育成に力を入れていきます。島根県は山間部も多く、人口の少ない地域では診療所も閉院してきています。地域に密着し、主治医機能を持った中小病院に総合医を充実させ、紹介医療重点医療機関への橋渡しをすることにより、医療資源の少ない島根県において効率的な医療ができる体制を構築していきたいと考えています。

今回の新型コロナウイルス感染症(コロナ感染症)では、中等症IIから重症の患者さんを見る重点医療機関として、多数の患者を受け入れ、また感染陽性妊婦の出産も多数扱いました。島根県は人口が少なく、病院数は全県下で46病院と少なく、各医療圏の中核となる病院は1-2か所しかありません。そのため、コロナ感染症と共に、日々の救急患者に対応する必要があると、コロナ感染症即応病床はフレキシブルに運用を行い、コロナ感染症入院患者が少ない時には、空床を一般の夜間緊急入院患者の入院ベッドとし

て利用し、救急医療が滞らないように努力しました。このような日々変化する病床利用などにも当院の職員は一般業務と両立して一生懸命対応してくれました。その職員の使命感の強さと各職種のチームワークの良さには感謝しています。医師も島根大学を筆頭に、京都大学、鳥取大学、広島大学、山口大学と様々な大学の医局から派遣をいただいています。山口大学から派遣していただいているのは、現在小田副院長以下計5名の循環器科医師のみですが、当院の循環器科は出雲地域の循環器疾患、特に救急疾患である冠動脈疾患においては随一の実績を誇っています。心臓カテーテル室も、効率よくカテーテル治療が施行できるよう、2管球の透視装置を持った治療室2室を一昨年度整備しました。循環器疾患は救急患者も多く、時間外労働が多くなっています。2024年から始まる医師の働き方改革では、時間外勤務を縮減していくことが求められており、働き方改革を進め、なんとか960時間以内に抑える努力をしなければなりません。地域で必要な医療を縮小

するわけにはいきません。そのバランスをとったうえでできることから働き方改革を進めなければいけないと苦慮しているところであります。1999年に新病院に移転してから24年弱、平均在院日数の短縮により、ベッド数は適正な数へと減少させましたし、地域医療構想、島根大学との役割分担などから、総合周産期母子医療センターから地域周産期母子医療センターへの移行等、医療情勢の変化により病院も変化してきました。これからも地域の人口は高齢化し、減少します。働き方改革への対応も必要です。しかし、このような変化する医療環境の中でも、自治体病院の使命である「地域に必要な医療を公平・公正に提供し、住民の生命と健康を守り、地域の健全な発展に貢献すること」をミッションとして、地域に必要な医療を提供するために欠かせない病院であり続けることを目指して病院を運営していきたいと思っております。



Better Health,
Brighter Future

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



ANA
CROWNE PLAZA®
AN IHG® HOTEL
UBE

ANAクラウンプラザホテル宇部
〒755-8588 山口県宇部市相生町 8-1 Tel:0836-32-1112(代)

印刷を企画から在庫管理・発送まで

一括サポート!

まずはお気軽にご相談ください。

瞬報社オフリン印刷株式会社

[本社] 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2410番地
TEL 083-972-5678 FAX 083-973-1912
[営業所] 広島・下関物流センター

医書のことなら全てお任せ下さい。

- 常時 10,000点の在庫。
- 便利な試覧制度と即日納品も可能なスピーディー宅配便。
- インターネットによる医学書の最新情報の提供と注文が可能。

《日本医書出版協会認定》
《医学・看護学専門書店》

井上書店

宇部店 〒755-8566 宇部市南小串2丁目3番1号
TEL (0836) 34-3424 FAX 34-3090
e-mail : ube @ mm-inoue.co.jp

小倉店 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1-20
TEL (093) 533-5005 FAX 533-9789
e-mail : kokura @ mm-inoue.co.jp

[ホームページアドレス]
http://www.mm-inoue.co.jp

誤操作による接続部外れリスクの低減のために

シユアプラグ™ AD protect



一般名: 緑色・カチン・カチン両アキサーシート 販売名: シュアプラグAD 医療機器登録番号: 220A62X0004

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区神宮前2-44-1 www.terumo.co.jp

記載されている社名、商標名等は、テルモ株式会社およびその子会社の登録商標または登録商標です。 ©テルモ株式会社2020年5月

ご結婚・ご宿泊・会議・会食に

国際ホテル宇部

☎0120-375931
山口県宇部市島1丁目7-1
http://www.kokusaihotel-ube.co.jp

山口大学医学部霜仁会の 会員総合補償制度

中途加入受付中！ 中途加入の場合、毎月20日までにお申込みいただくと翌月の1日が補償の開始日となります。

団体割引※が適用されるため、**保険料が割安**です!!

※団体割引は毎年変動する可能性があります。本チラシに記載の団体割引は、2023年4月1日～2024年4月1日までに保険始期のあるご契約に適用されます。



産業医等活動保険にもご加入できます！
(勤務医師賠償責任保険任意オプション)

会員総合補償制度のおかげで安心して医療に従事できます

万一の医療事故を補償

医師賠償責任保険
(勤務医向け)

団体割引 20%

地震や日常生活によるケガ・携行品賠償責任を補償 団体割引 5%

傷害補償

- ◆国内外、24時間、事故によるケガを補償します。(地震・噴火・これらによる津波によるケガも補償します。)
- ◆ケガ以外にも携行品の損壊など、様々なリスクを補償します。
- ◆年齢にかかわらず保険料は一律です。

働けなくなった時の収入を補償 団体割引 10%

所得補償

- ◆病気やケガで就業不能となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆入院はもちろん、自宅療養もカバーできます。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

+

所得補償、団体長期障害所得補償
どちらも加入することをおすすめします。

万一のがん・病気・ケガを補償

がん補償 団体割引 10%

- ◆がんと診断されたとき、診断保険金が支払われます。
- ◆入院保険金は1日目から何日も補償されます。
- ◆手術保険金は何回でも補償されます。(手術の内容・種類によっては回数の制限があったり、お支払の対象とならない場合があります)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

医療補償

- ◆病気だけでなくケガによる入院も補償されます。
- ◆入院保険金は入院1日目から補償されます。(限度日数あり)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

長期間働けなくなった時の収入を補償 団体割引 10%

団体長期障害所得補償

- ◆病気やケガで就業障害となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆長期にわたり(最長5年)生活費をお届けします。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

突然介護が必要になった時に保険金をお支払 団体割引 10%

介護補償

- ◆公的介護保険制度に基づく要介護2以上の認定を受けた場合
- ◆東京海上日動所定の要介護状態(要介護2用)と診断されその状態が90日を超えて継続した場合

いずれの場合、保険金(一時金)をお支払いします。

詳細はパンフレットをご覧ください。この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体生活総合保険の概要についてご紹介したものです。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡しする保険約款および協定書によります。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。尚、ご不明点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

申込書類・資料のご請求やお問い合わせはお電話もしくはメールで下記取扱代理店までお願い致します。

お問合せ先・取扱代理店

株式会社パイオニア (平日)午前9時～午後5時
〒103-0021 東京都中央区日本橋本町 4-4-16 小泉第2ビル 3階
TEL : 0120-010-938 FAX : 0120-921-051
http://www.pioneerltd.com yamada@pioneerltd.com

引受保険会社

東京海上日動火災保険株式会社
(担当部) 医療・福祉法人部 東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014
TEL : 03-3515-4143 www.tokiomarine-nichido.co.jp
募集文書番号 : 2023年2月作成 22TC-101637

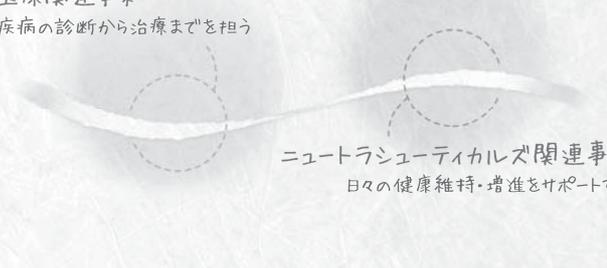
いついかなる時も、いちばんそばに。

To Be a Good Company



東京海上日動

医療関連事業
疾病の診断から治療までを担う



ニュートラシューティカルズ関連事業
日々の健康維持・増進をサポートする

両輪で身体全体を考える

世界の人々の健康に貢献する
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide



Otsuka 大塚製薬

<https://www.otsuka.co.jp/>



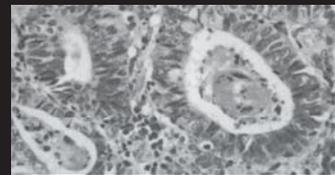
世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献する

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。



第一三共株式会社

病理組織・細胞診検査 動物実験研究用病理標本作製



地域医療に貢献し、 共に発展する検査センター

登録No.100号の登録衛生検査所として病理検査部門の検査を行っています。各種臓器の生検、手術標本はもちろんのこと、研究用試料も扱っています。また、細胞診検査においても各種検体を扱っています。

責任が持てる標本作り

最新の設備を導入し、それらの機器は常に管理され、運用されています。ステップ毎に管理された行程は、日々の仕事を円滑にし、精度の高い検査情報として提供致しております。

すばやい対応・迅速・正確

持ちこまれた検査物は大事なお客様です。検査別、材料別に適した処理を迅速に行います。受付から結果報告まで一貫したシステムで対応しております。

標本が教科書

細胞診では毎日の業務の積み重ねがよりよい結果をもたらします。より豊富なコメントと診断精度の向上に日夜努力しております。

検査項目

- 細胞診：婦人科
- 細胞診：一般（呼吸器・泌尿器・体腔液・その他）
- 病理組織診断：各種臓器の病理組織検査
特殊染色（免疫染色法を含む）
ER、PgR、HER2染色法
- 研究用病理組織標本作製
※詳細は検査案内書参照

結果報告

- 受け取りから結果報告まで
細胞診：2～3日
病理組織診断：3～4日
（脱灰脱脂や特殊染色が必要な場合は多少時間がかかります）
※お急ぎの場合はその都度対応いたします

組織、細胞診検査の集配業務行っております。

各種依頼用紙、試料瓶などはご一報頂ければお届けします。新規の医療機関でもお電話頂ければすぐに伺います。

※詳細は検査案内書を参照してください。検査料金は当センターの検査料金規定によります。

(社)霜仁会検査センター

〒755-0046 宇部市南小串1丁目2-11 霜仁会医学交流会館2F
TEL 0836-31-7510 FAX 0836-31-7590

ニューフェイス

卒後臨床研修の体験談

山口大学医学部附属病院 脳神経内科

富田周作

山口大学を卒業後、宇部興産中央病院で初期臨床研修をさせて頂きました。総合診療科や脳神経外科が強く、救急外来での対応もすっかり学べ、また自身が産まれた病院でもありルーツを探る意味という意味で希望させて頂きました。

量がありました。初志貫徹する形とはなりませんが、初期研修で見た背中や頂いた言葉は医師としての確かな土台となっています。今後も山口の医療に貢献できるような努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

<https://www.uhehp.or.jp>

卒後臨床研修体験談

山口大学医学部附属病院

皮膚科

桑原啓太

私は兵庫医科大学を卒業後、関門医療センターで初期臨床研修をさせて頂きました。関門医療センターは三次医療機関で、様々な大学から多くの研修医が集まるため研修先として希望しました。

山の知識や手技を学べます。今後の医師生活に生かせる充実した初期研修となりました。これからは皮膚科医として山口県の医療に貢献できるよう初心を忘れず精進して参ります。

<https://kannon.hosp.go.jp>

年間を通じて研修医対象のレクチャーが多く、救急対応や病棟業務などの科に進んでも活かせる知識や手技を教えて頂きました。特に総合診療科 齊藤裕之先生には学会での発表に際し熱心にご指導頂き、院内の沢山の先生方にも多大なご助力を賜り、結果として優秀演題賞を頂けたことは誇りに思っています。また、屋根瓦方式で日々の疑問について研修医同士で気軽に意見交換できる環境でバランスの良い研修でした。



後列左から6番目が私になります

関門医療センターは研修1年目に3か月間救急科・総合診療科でのローテーションがプログラムに組み込まれています。総合診療科佐藤穰先生、救急科松本泰幸先生に丁寧かつ熱心にご指導して頂き、沢山の知識や手技を学ぶことができます。基本的にファーストタッチは研修医が行いますが、分からないことや困った際は佐藤先生、松本先生から助言を頂いたり、対応して頂けるので安心してファーストタッチに臨むことができます。フィードバックもして頂けるので一人の患者さんから多くのことを学ぶことができます。日当直でもファーストタッチを行います。総合診療科での経験や各科の指



写真左から2番目が本人

ジエネシス

2年生になつて

医学科 二年 浅井秀斗



なつたことを否が応でも自覚させる。

我々は国家予算の補助のもとで講義を受け、貴重なご遺体を解剖しながら、絶えず医学生であることによる機会の恩恵に預かっている。その分、将来の医療を支える人間になるという社会からの付託を受ける身としての責任の大きさにうたがひを感じない。学問としての医学に対し真摯に向き合わなければ、医学生たるものおよそその名に値しない。

ただ、このことを承知の上で、2年生はハードスケジュールもいいところだと思ってしまう。あんなに気楽だった1年が嘘であるかのように。もはや違う大学に来たかと錯覚する。膨大な暗記量、次々と迫ってくる試験が名実ともに医学生と

医者としての人生を歩もうとする私にとって間違いなく成長の好機でもあるというところ、決して忘れてはならないのだ。

3年生になつて

医学科 三年 是永佳佑



未だ前途多難な医学生の道のりの序章に過ぎないが、同級生として立場と価値観を共有する仲間と協力して乗り越えていきたい。

山口大学医学部医学科3年、是永佳佑です。昨年度は、先生方の手厚いサポートのおかげで、何とか進級することができました。今年度は去年の二の舞にならないように、努めたいと思います。

今回のテーマは「3年生になつて」ということで、私の2年から3年への進級に際した変化について触れたいと思います。まず学習面ですが、2年生のときにくらべ、より臨床的になつたと感じます。解剖などを

最近では友人と料理する機会もあり、一人で料理をする楽しさとはまた違った楽しさを感じ、より一層熱が入っています。

3年生になつてまだ数ヶ月ですが、とても充実した毎日を送っていると感じます。部活動でも幹部学年となり、自己開発コースも

4年生になつて

医学科 四年 石川一樹



実施されました。特に解剖実習などで同じ学年の仲間たちとともに医学の勉強をしているという実感は順当に進級するための大きな支えになつてきたと思います。

山口大学の医学科では3年生の1月から4年生の12月は臨床講義を各科の先生から受け、CPT・OSCE、そして臨床実習に備えています。講義毎に内容が新しく、常に新鮮な気持ちです。'Arts Longa'という言葉の通りまだ先が長いと感じながらも、これまで解剖や生

理学で学んだ知識と整合させながら順調に学習を重ねることができているという自信がついてきました。ところで、昨年度末にOpenAIやAnthropicからChatGPTやClaudeという大規模言語モデルが多くの人に利用できる形で公開されました。これらのAIに医師国家試験を解かせると合格ラインを超えるという検証もありました。私も試してみたところ、細かいところで間違えるところはありますが聞き方を変えてみたり英語で聞いてみたりすると正しい答えが返ってきて驚きました。将来、AIがどのように活用されて、自分たちがどのような働き方をしているかは

判断としないですが、自分の頭で考えながら学ぶ姿勢を大切にしていきたいです。部活では優秀な同期に恵まれたおかげで私は幹部ではないのですが、場によっては指示を出さないとけない側になることもあって、やはり4年生になったのだと再認識させられます。私が入部した時に見た4年生の姿と4年生になった自分の姿と重ねてみると不思議な気持ちになります。

医学部医学科に入学してからの折り返し地点を通過し、始まった4年生。過去を振り返りつつ未来を見つめ、残り半分を悔いなく過ごすようにしたいです。

5年生になって

医学科 五年 中村陽生



はじめまして、山口大学医学部医学科5年の中村陽生と申します。今回はこのような機会をいただき、ありがとうございます。拙い

れた肉眼解剖実習のときと同じような感覚に陥りました。医学生として、そして将来の医師としての長い道のりの第一歩を踏み出したあの感覚です。数多の基礎医学と臨床医学の試験を乗り越え、CBT・OSCEにも合格し、やっとのことで始まった実習は再び大きな一歩を踏み出す感覚をもたらしました。Student Doctor

の認定証を胸に病院内を歩くことで誇らしい気持ちになる一方、それに伴う責任から不安にもなります。しかし、さまざまな方々の支援のおかげで、日々の成長を感じることで、少しずつ自信に変わってきています。実際に患者さんに会い、診察の手法や手術の見学をするなど、日々新しい経験を積み重ねることで、実習の楽しさを感じながら頑張ることができています。また、実習班の仲間も素晴らしい人たちばかりで、励まし合いながら日々の実習に臨んでいます。

5年生になり、部活動での過ごし方にも意識を向けるようになりました。私が所属している軟式テニス部は、昨年の秋から大会も再開し、コロナ禍以前の部活動の雰囲気を取り戻しつつ

あります。引退までの時間があまり残されていないことを考えると、日々の練習や部員とのコミュニケーションを大切にしなければなりません。最近では初期研修病院について考えることが増え、長い6年間の学生生活も卒業が近づいていることを感じます。勉強に集中できる時間や、部活動で心ゆくまで身体を動かすことができる時間はかけがえのないものです。だからこそ、学生としての残りの時間を大切に、何事にも後悔のないように取り組みたいと思います。

クラブ紹介

弓道部

医学科 四年 森光喜



現在、山口大学医学部弓道部で主将を務めさせていただいております、医学部

医学科4年の森光喜です。弓道部は6年生6名、5年生6名、4年生10名、3年生12名、2年生18名の計52名で活動しております。団体練習は火曜、木曜、土曜の週に3回、宇部市スポーツ振興課弓道場で行っております。また他の曜日においても自主練習として多くの部員が日々弓道の鍛錬に励んでいます。山口大学医学部が毎年参加している行事として、5月のGMSに行われる九州・山口医科学生体育大会、7月に行われる中四国医科学生弓道大会、

8月に行われる西日本医科学生体育大会と西日本看護学生弓道選手権大会、10月に行われる産業医科大学・山口大学定期交流戦や奥川杯、11月に行われる五校戦などがあり、たくさんの方に参加しています。10月にある奥川杯とは山口大学体育会弓道部との交流戦であり、普段交流の少ない他学部と一緒に弓道ができる機会でもあります。

弓道には正射必中という言葉があります。これは、正しい射法で射られた矢は必ず中するという意味です。また逆にこの言葉は、中つたならそれが必ずしもいい射法であるということでは

ないことを表しているとも言えます。「正射」に到達するためにはただひたすらに技術を磨き、上達するだけでは不十分です。技術を学ぶにつれて自己の人格を磨くことが真に必要なのです。これは弓道に対してだけでなく日頃の生活にも大切なことで、心と技を一体として、内面の価値を高めることで初めて「正射」となり得るのです。部員はこのことを十分に理解しているため、日ごろの練習から正射を心がけて練習に励んでいます。

昨年度まではコロナ禍でほぼすべての大会が中止となってしまいましたが、今年度からようやく様々な行事が復活し始めました。部員一同、より一層努めてまいりますので今後ともよろしくお願い致します。末筆ではございますが、顧問である山下教授をはじめ、OB・OGの先輩方からの多大なるご支援ご協力心より感謝申し上げます。



ご逝去を悼む

小原 正先生の死を悼む



江里健輔
(昭和39年卒)

大島町立大島病院元病院長「小原 正」先生が令和5年2月11日に逝去されました由、ご葬儀参列できず残念に存じております。

先生は昭和32年に山口県立医科大学（現山口大学大学院医学研究科、以下山口大学病院とする）を卒業され、学位を取得後、大島町立大島病院（現周防大島町立病院）に赴任され、生涯を地域医療に尽くされ、その功績で、平成7年度第24回都道府県医療功労賞を授与されておられます。

昭和40年代、山口大学病院から医局員を派遣する病院（以下、関連病院）は極めて少なく、多くの卒業生は開業の道を選んでおられました。そのような状況で、離島であった大島病院に赴任を志す卒業生はいません

でした。その様な厳しい環境で一生涯をへき地医療に捧げられた先生の山口大学病院への貢献には筆舌でささない感謝の念を捧げても一杯です。その気持を忘れることがないように当時の山口大学病院と関連病院について振り返ってみます。

ご存じのように、臨床を志す医師の主な赴任先は大卒のような研究機関、臨床医としての病院、開業、あるいは臨床医ではない医療行政機関などに限られています。当時は、臨床医を目指す多くの医師は希望する診療科の医局員として、卒業後大学病院と関連病院を行き来しながら、技術を修得して行きました。それを終えると、下記のようないろいろな職場に向向あるいは赴任して行きました。従って、関連病院は医局員が高度な臨床経験を積むことが出来

る大きな職場でした。しかしながら、当時、関連病院はそれぞれの大学病院に系列化され、系列化されていない大学病院の医局員を関連病院が採用することがありませんでしたので、それぞれの大学病院の臨床教授は関連病院獲得に一生懸命でした。因みに、昭和40年代の山口大学病院と関連のある主な公的・私的大・中病院の病院長の出身大学は

- 九州大学・下関国立病院（現関門医療センター）、下関市立病院（現下関市立市民病院）、小野田市立病院（現山陽小野田市民病院）、長門病院、山口労災病院、山口赤十字病院、周東総合病院
 - 長崎大学・山口県立総合病院（現山口県立医療センター）、済生会山口総合病院
 - 熊本大学・下関厚生病院（現下関医療センター）
 - 岡山大学・岩国国立病院（現岩国医療センター）、山陽病院（山口宇部医療センター）、南陽病院（新南陽市民病院）
 - 京都大学・徳山中央病院、宇部興産中央病院、島根県立病院
 - 京都府立医科大学・光市民病院
- 医局員の派遣はこれらの系列化の病院長と山口大学病院の臨床教授との話し合いで決定されて行きました。各病院長は母校から医局員が派遣されない場合には、山口大学病院へ医師の派遣を要請されて行きました。それぞれの大学病院は病院長、あるいは診療科の部長は万難を排し派遣しますが、部長以下のスタッフの派遣は必ずしも前向きではありませんでした。要するに、言葉は悪いですが、下働きとしてのスタッフでした。いくら頑張っても病院長はるか診療科の部長に就くことは至難の技でした。しかしながら、我々の先輩は後輩のためと我慢しながら、耐えてたえて病院に向向して行きました。私事で恐縮ですが、私が赴任した山口県立総合病院は平成13年までは長崎大学から病院長が派遣されて行きました。山口県立の病院だからということでは、歴代の県議会議員、山口大学医学部附属病院院長の方々が山口大学病院卒の病院長就任を切望され、エネルギーを注いでおられましたが、実現には長いながい月日が必要でした。
- 時代の変遷と共に、新病

院の設立、病院の大型化、専門医制度などが進化するに連れて、それぞれの大学病院は遠く離れた病院に医局員を派遣することが困難になり、その穴埋めとして、本学の卒業生が病院長として、あるいは部長として赴任出来るようになり、山口大学病院の関連病院も少しずつ増えてきました。そのような状況の中にあつて、「地域医療」という言葉もなく、どこの大学病院も見向きもしなかった大島病院に小原先生が病院長として一生涯勤められたのです。小原先生は会う度に、よくとつとした口ぶりで、大学でもっと高度な医療を勉強したい、早く大きな病院に赴任し高度の医療をしたいと申されていましたが、いろいろな事情で先生の希望は叶いませんでした。私と親しいある大阪大学医学部教授は

「『落ち穂拾い大学』という嫌な言葉を知っているか？我々の大学は『落ち穂拾い』大学じゃった。京都大学が手放した病院に医局員を派遣し続け、漸く現在のよう大病院に医師を派遣出来るようになった。だから歴史を知らない若い医局員は、大阪とはずっと離れてる愛媛、呉などの病院に出来ることを嫌がるが、先輩がどれくらい苦勞したかも理解して欲しい。全員が大学で研修できないのだから良質な臨床医を養成するには質の高い関連病院は絶対必要なんだ」と申されていきました。

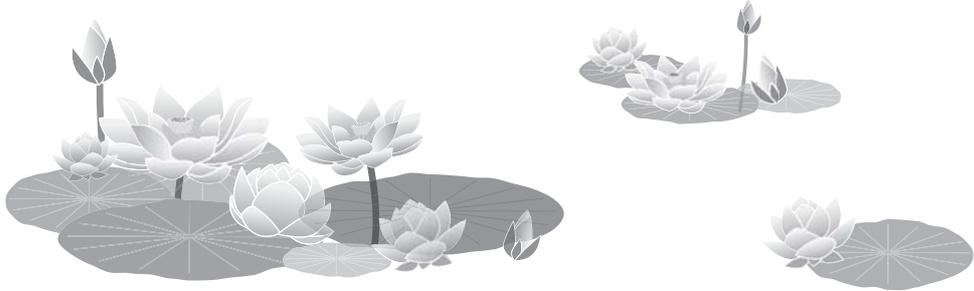
私は大学病院の系列化を肯定しているのではありませんが、現実には目を閉じることは出来ないわけです。インター制度が廃止され、臨床研修制度の設立で、病院の系列化は次第に希薄となつてきつつあります。地方で研修する卒業生が少なくなり、大都会へ、大病院への志向が強まっています。山口大学病院でもスタッフ不足で、関連病院に医局員を派遣できないと聞き及んでいます。関連病院を維持するのが大変だという教授連の言葉に接し、ご苦労だが頑張つて欲しいと願っているところですよ。

ただ、水は高い所から低い方へ流れると言われる如く、世界に、日本に冠たる屈指の業績があれば、人は自然に流れ流れ集まってくることも事実です。

系列化が持続する限り、関連病院が良質の臨床医を養成するために、如何に重

要であるかを認識して欲しいです。

小原先生の山口大学病院への貢献を感謝し、今はただ先生のご冥福をお祈りするばかりです。



河合伸也君を偲んで

拾 苜 会

(昭和40年卒)



に活躍の様子を読んだばかりだったのに。

入学以来、出席番号が7番岡崎、8番河合で、どんな班に分かれても常に一緒だった。ふつくらした風貌といささか太り気味の体躯で、物事に鷹揚に見えながら、慎重かつ繊細な神経を有していた。1964年、専門4年生（現在の6年生）の時に、級友の年光昌宏君と3人で日本一周自動車旅行（2/3週に終わつたが）を実行した。その際、毎日交代で助手席でnavigator（道先案内人）を務めたが、2人（私と年光君）の場合は必ずと言つていいほど後戻りをさせられたが、河合君の時は一度も道を間違わなかった。彼の慎重さと判断力に驚嘆したものである。この彼の人間性と努力が、クラスでただ一人母校教授に就任させたものと思つている。健康にも留意しており、早くから車を止めて徒歩通勤していた。その彼が先に逝き、医者の不養生をそのままの

私が残るとは、神ですら思わぬことではなかったのではあるまいか。さほど遠く無い内に、君の地に逝くことは確かである。またかの地で自動車旅行にでかけよう」

註・当時のカリキュラムでは教養課程2年と専門課程4年の全課程で6年となつていた。専門4年生は専門課程4年生を指す。

国東公明

「河合君、現世にては、ずいぶん頑張つて功績を残して忙しかったと思うが、来世にすでに旅立ちしたポリクリ・グループに仲間入り（開地、河野、河合、岸川、楠）。次は国東公明の順になりそうですが、先日、出身校の同期会で3年先の米寿の会に出席する約束をしたので、それまで現世で頑張つて、その後、来世へ旅立ち貴君らに仲間入りしたいと思うのでその節はよろしく」

註・ポリクリ＝policlinic

外来診療実習のこと。専門課程4年（6年生）では出席番号順に5、6名が一つの班となり各診療科の外来診療を実習した。

左利厚生

「河合伸也君、君の急逝に驚き、悲しみと共に、いつ

2023年2月27日級友の山口大学名誉教授（整形外科学）河合伸也君が急逝しました。享年83歳でした。この年齢で山口東京理科大学の教授として活躍中と聞いていましたから、この訃報を耳にした時誰もが信じ難く、そして事実と知り茫然としました。ここに在りし日の河合君を偲んで、同級生一同が追悼の意を表し「ご冥福を祈ります」。

伊藤肇

「いつも元気な姿しか記憶にない河合伸也君の逝去の報せに接した時は、えっ本当かと信じられない気持ちでした」

大山勝

「河合先生とは長い間お会いしていませんでしたが、偉業は聞いていました。ご冥福をお祈り申し上げます」

岡崎幸紀

「君の突然の訃報に愕然とした。先々号の本誌で元氣

も穏やかな眼差し君の顔を思い出しました。

学生時代すでに、君は落ち着いた振る舞いと共に発言にも重みがありクラスの中心的位置を占めていました。ですから、未熟な私は君を随分大人として意識していたことを思い出します。卒業後まもなく私が大学を離れ君との交流は途絶えましたが、その間山口大学整形外科教授に就任したことなど、その活躍ぶりが何かの折に耳に入ってきたが、いずれもうなずけるものでした。

私が引退後30数年ぶりに倉敷市より宇部市に転居したので、君との交流が再開しました。今年の君の新年の挨拶のメールに「年齢相応には十分に草臥れてはいません。とはいえ、私はまだ現役の教授（山口東京理科大学）を担当しており、もう1年数カ月はくたばることとはできないのです」とありました。このメールの50日後の雄志半ばの急逝です。言葉もありません。

40年卒、拾筈会の大脳半球的存在の君を失い、哀悼の意を述べることになるのは、悲しくも残念です。どうか安らかにお休みください

多嘉良稔

「河合伸也君の訃報に驚いている。元氣だったので急逝が信じられない。拾筈会で逢ったら笑顔でおい元氣かと言っていた。」

2人がズブの時「大腿吻合術をした」を診てくれ」と依頼され、診たら「あかく張れた厳しい状態で切斷したほうが良い」と返事したら、反論せずじつと聴いていた。後日、 α が松葉杖をついて歩いているのを見た。河合君はリーダーとして、 α にとって良好と思われる対処をした結果と思われた。お別れの会は遠方に居る関係で参加しかねます。心よりご冥福をお祈りいたします。

註：ズブ = sub、接頭語「補」「副」「下位」。助教授を指す学生間で使われた用語。
Pt = patient 患者
年光昌宏

「河合君の突然の訃報残念です。河合君との思い出は、学生時代最後の夏休みを利用して医大創立20周年のよろこびを遠地の先輩方と共に分かち合いたいと河合、岡崎両君が計画した先輩訪問の自動車の旅に誘われた事です。山陰から北陸に出て能登半島を一周して

平田晴夫

直江津から軽井沢、高崎を通り関東平野を下って、横浜から東海道、山陽道を抜けて宇部まで。テントやバングローなども利用しながら1カ月弱、寝食を共にして走った距離は3,500キロ。訪問した先輩は36名（その節はお世話になりました）。自動車の旅は計画通り順調に進み車の故障以外病氣も事故もなく無事旅を終えることが出来ました。河合君とても楽しい思い出がありがとう。ご冥福をお祈りします」

「河合君の急逝に驚き、残念に思います。河合君とは学生時代より一緒に遊び、勉強した仲間、最大の出来事は専3（5年生）の夏休みに河合君、私、他2名の4名で約3週間テントを担ぎ北海道旅行したことを楽しく思い出します。卒業後整形外科へ8名入局し、8名中河合君だけアメリカ留学をし、頑張つて3代目整形外科教授となり、立派な業績を上げられました。彼岸で一杯やりましょう。ご冥福をお祈りいたします」

註：専3は専門課程3年生を言い、全課程では5年生になる。
生になる。

牧坂泰治

したが、時に「終活」を話題にしたこともありました。当時は「死」など、まだ先の話しと聞いていました。ここ数年は、お会いすることもなく、賀状のみにて、互いの消息を確かめており、先生も健やかに過ごしておられると、思っていましたので、今回の訃報には驚き、また寂しさも、ひとしおでした。今はただ先生の御冥福をお祈りするのみです」

「昭和34年4月山口県立医科大学の入学式の日が故河合伸也君との初めての出会いでした。彼は現役入学の頭脳明晰な青年で眼鏡の奥には常に笑顔がありました。そして勝負事にはめっぽう強い才能の持ち主でもありました。この度の旅立ちには医師として学者として活躍の最中でしたので貴重な人物を失うこと、になり、大変残念であります。喪心よりお悔やみ申し上げます。合掌」

溝部洋之
「専1（3年生）の思い出。秋・スキの万年池でキャンプをして中秋の名月を見たこと。冬、講義中に雪が降りだしみんなでスキーに行き民宿して2日休



会員だより

参議院インターン報告

医学科 五年 木村綾佑



私は春休みに参議院議員の自見はなこ先生の下でインターンを行いました。自見先生は筑波大学を卒業後、学士編入にて東海大学に入学され、その後小児科

医として活躍されています。その経験から現在内閣府大臣政務官として医療・福祉を専門に、国政に精力的に取り組まれています。

インターンではお茶汲みや電話対応から、議連の資料や議事録の作成に至るまで、政策に関わる業務の補助を経験させて頂いた他、参議院本会議の傍聴や国会食堂での昼食など貴重な体験をすることも出来ました。

その中で特に印象的であったのは難聴対策議連です。党本部で行われた議連には多くの関係者が出席し、自治体の先進的な取り組みや国の調査研究事業の紹介から、現行の制度下で支援を受けることが難しい方々の声についても取り上げられるなど、忌憚の無い意見交換が行われ、会議室はこの国の医療を良くしていこうという熱意で満ち溢れていました。

また現在の社会情勢や政

策動向に関して、厚生労働省の医系技官の方が議員会館に説明に来られることがあるのですが、その中で山口大学のOBで現職の医系技官である西嶋康浩先生（平成14年卒）とお会いする機会もありました。西嶋先生は当時、厚生労働省健康局難病対策課医療対策推進室長（現・健康局がん・疾病対策課長）として遺伝子検査に関する調査業務をなさっており、会館では国内外の遺伝子検査についてコスト比較やリスクマネジメントなどの点から現在の問題点や今後の課題を丁寧に説明して下さいました。

西嶋先生は私が2年生の時に第3講義室で行われた医系技官に関する特別講義の講師として来られたのですが、私はその時に初めて行政で働く医師の存在を知覚えています。実際に国政の場で活躍される先輩の姿を目の当たりにして医系技官に対しての想いはより一層強くなりました。

今回のインターンを通じて、これまで漠然としか考えていなかった将来のキャリアプランについても強く意識する様になり、医師としての社会貢献を行うにあ

たって、多くの選択肢があることを改めて認識する機会となりました。将来は医系技官、そして機会があれば議員として国内の医療行政に取り組むことも視野に入れながら、今後も一層勉学に励みたいと思います。



クラス会報告

楽しいクラス会の様子を8〇〇字程度にまとめて写真を添えてお送りください。

三六会

昭和三十六年卒同窓会（土曜会）の開催

山口県立医科大学昭和三十六年卒同窓会（土曜会）を令和5年5月27日土曜日に宇部市のM2Cクラウンプラザホテル宇部で開催しました。

私達の同窓会は第1回を土曜日に開催しましたので、（土曜会）と称して毎年同窓生の持ち回りで全国の各地で行ってきました。が、コロナ禍の為に数年振りの開催となり、集まったクラスメートが3年振りかなとか5年振りかなとか喋っていましたが、4年振りの開催です。

少し寂しい会でしたがクラスメートの1人が「最後の3名になるまで続けよう」と叫べれば会は賑やかに始まりました。

会を始めるにあたり、今年の1月24日にご逝去された萩市の縄田貞雄先生のご冥福を祈り黙とうを捧げ、1番遠くから来られた京都府亀岡市の小牧先生の乾杯

を会を始めました。出席者は山陽小野田市伊藤産婦人科医院の伊藤和雄先生、伊藤多鶴保先生、宇部市の大田民男先生、島根県浜田市の北村健二郎先生、京都府亀岡市の小牧真治先生ご夫妻、周南市の高島正成先生、山陽小野田市の伊藤内科医院の松本昇先生ご夫妻、宇部市の床波内科の高田千弘夫妻の11名です。

話が弾み出来の良いポリクリのグループと出来の悪いポリクリのグループの話や各自が自分の体調の悪さや、持病の話や競い合ったり、まだまだゴルフが出来ると自慢したり、大田先生が最近達成したエイジシンユウトに祝意を述べたりと、あつと言う間に2時間

私達は山口県立医科大学が進学課程を新設した初めての学年で、その後大学は県立医科大学から国立大学への移管が決まりましたが、新しい学年からの年次移管となり、私たちは卒業も山口県立医科大学卒業です。ちなみに、大学院も山口県立医科大学大学院生でした。集合したのは卒業生40名の内クラスメート8名と同伴の奥様方3名の11名でし

た。少し寂しい会でしたがクラスメートの1人が「最後の3名になるまで続けよう」と叫べれば会は賑やかに始まりました。

が過ぎゴルフで宇部カントリークラブのチャンピオンにもなった伊藤和雄先生がゴルフばかりではなかったよと産婦人科開業医のあり方について真面目な話をしてみんなが傾き、大変有意義な会となりましたが、アルコールの消費量が極端に少なく、足が出るかと心配した会費も余り土曜会の本会計に入れましたが、皆さん酒が弱くなりましたね。



最後に次期幹事が北村先生に決まり、次回は広島市で開催されることになりました。二次会の15階のワンフアイブに移動し、夜景の美しさに話しは弾みましたがアルコールの消費量は伸びず安くつきました。若い時の酒豪が揃ってましたのに、幹事としましては安心もしましたが狐に抓まれたような気分です。年を取るとはこういうことかもしれませぬ。

(昭和36年卒期別代表
高田千弘)



三 八 会

昭和38年卒(三八会)のクラス会がコロナ禍のため丸3年間延期になり、令和5年6月3日(土) J R九州ステーションホテル小倉で西明、久原、白石の幹事で開催しました。

まず4~5年の間に左記の7人が亡くなり、亡き友のために黙祷をささげました。

原八州雄先生

2019年1月5日死亡

木村安行先生

2019年8月7日死亡

小田嘉彦先生

2020年9月12日死亡

原田 勇先生

2020年9月12日死亡

馬場達二先生

2022年5月1日死亡

田中正則先生

2022年12月29日死亡

豊田作次郎先生

2023年3月18日死亡

最後に欠葉書に記載があった同級生の近況報告を紹介します。

(敬称略・順不同)

伊東孝廣・腰痛のため歩行障害に悩んでいます。週2日非常勤で働いています。

岡村功・以前から居る病院に週3日勤務しています。

柏木崇・元氣です。

久原孝夫・身体のあちこちにガタは来ていますが、週一ゴルフとインターネットを楽しんでいます。

神徳翁甫・体全体ががたがたですが週3回診察しています。

白石徹・私は令和4年3月にクリニックを引退し、息子に全面的に譲り、現在小倉医師会健診センターに週1回診察に行っています。

それ以外の有り余る時間は昭和32年大学入学時に始めたヴァイオリンを現在も続けています。

杉山喜一郎・家内が脳梗塞になり、続いて突発性難聴で川本先生に大変お世話になりました。一人での歩行が困難となり、施設に入所して半年になります。私は一人暮らしで気力体力もおとろえ淋しい生活をしてい

ますが、家内の為に一日でも長く生きなければと努めています。

土井悌・一日3kmの散歩故か薬不要で長生きしています。

橋本隆・小生10年前肺癌のOP、9年前心筋梗塞一歩手前でステント術をうけるも今の処予後はよいようです。週5日出勤中です。

渡邊英介・ADLは良好な

のですが足腰が悪く外出する体力がなくなりました。



編集後記

ようやくコロナ禍前の状態に戻りつつあります。支部会・クラス会の情報をぜひお寄せ下さい。

本会報にも載せています。ご名簿改訂を行います。ご協力よろしく願っています。(奥屋 茂)

訃報

河村利治先生(昭34年卒)
令和2年8月3日逝去

牧角 格先生(昭37年卒)
令和4年10月9日逝去

田中良章先生(昭37年卒)
令和4年11月16日逝去

下村文人先生(昭24年卒)
令和4年12月27日逝去

安田俊博先生(昭44年卒)
令和5年2月25日逝去

鈴木惟正先生(昭34年卒)
令和5年3月17日逝去

豊田作次郎先生(昭38年卒)
令和5年3月18日逝去

森山勝利先生(2号会員)
令和5年3月20日逝去

村重武次先生(昭24年卒)
令和5年4月18日逝去

渡辺正俊先生(昭47年卒)
令和5年4月20日逝去

木下謙治先生(昭25年卒)
令和5年4月29日逝去

早川幹夫先生(昭44年卒)
令和5年5月28日逝去

〓冥福をお祈りいたします。

2023年4月より

霜仁会の ホームページ リニューアル!


<https://soujinkai.jp/>


パソコンの他、
スマホや
タブレットからも
快適にご利用
いただけるよう
になりました。



会員ページを開設

- 会員向けのお知らせが充実
- 住所や勤務先など、会員情報の変更はこちらから簡単に申請できます。
- 「霜仁会会報」バックナンバーが閲覧できます。

**会員ページへは
専用のID、パスワードが必要です。**

IDは各会員番号の下4桁(例:1234)
パスワードは会員共通 **soujinkai**

※ID、パスワードの他人への情報提供や開示は固く禁止いたします。

不明な点がございましたらご連絡ください。

霜仁会事務局 TEL/0836-22-2029 FAX/0836-31-7586 Mail/jimu@soujinkai.jp

霜仁会会員名簿改訂のお知らせ

今年度は同窓会会員名簿改訂の年にあたります(令和6年2月発行予定)。会員の皆様には登録データの確認と名簿掲載の可否について、ご案内をお送りいたします。9月末までにご返信お願い申し上げます。

霜仁会事務局

TEL : 0836-22-2029 E-Mail : jimu@soujinkai.jp